

1. 事業概要

人口減少や高齢化に伴う公共交通機関の利用者減少や、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動の機会の減少の影響により、公共交通事業全体で輸送人員が減少している。このため、ニューノーマルに対応した新たな交通サービスの導入が急務となっており、地域交通の高度化を含めた取組が必要である。

本町では、広島県の「広島型MaaS推進事業補助金」を活用し、令和3年度に調査事業としてMaaS社会実装計画を策定、令和4年度に総合事業として1ヶ月間のデマンドバス実証運行を実施した。

令和5年度はその結果を受け、引き続き定時定路線型で運行しているコミュニティバス「おと姫バス」と併行してデマンドバスを運行、その実効性を更に検証し、令和6年度からの社会実装（本格運行）を目指す。

2. 令和4年度までの成果と課題

(成果)

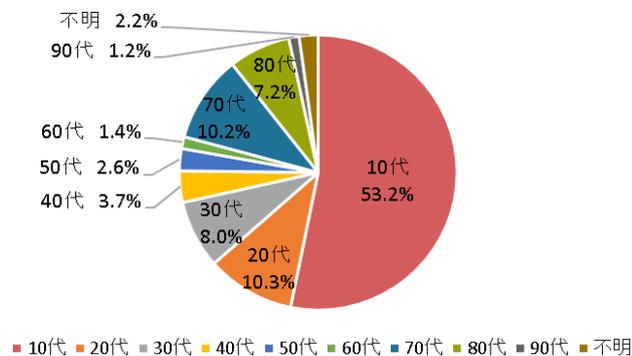
1ヶ月間の実証実験において、町内を定時定路線で運行している従来のおと姫バスと併行してデマンド型おと姫バスを運行したところ、実証実験前後より利用者数が59.6%増と、住民の外出意欲の向上がみられた。

期間	内容	利用者数 (人)	運賃収入 (円)
実証実験前後 11/1~11/16 12/17~12/31	おと姫バス	1,475	125,700
MaaS 実証実験 11/17~12/16	デマンド型おと姫バス	1,179	81,250 (114,250)
	おと姫バス	1,175	101,650
	小計	2,354	182,900 (215,900)
	実証実験前後比 (%)	159.6	145.5 (171.8)

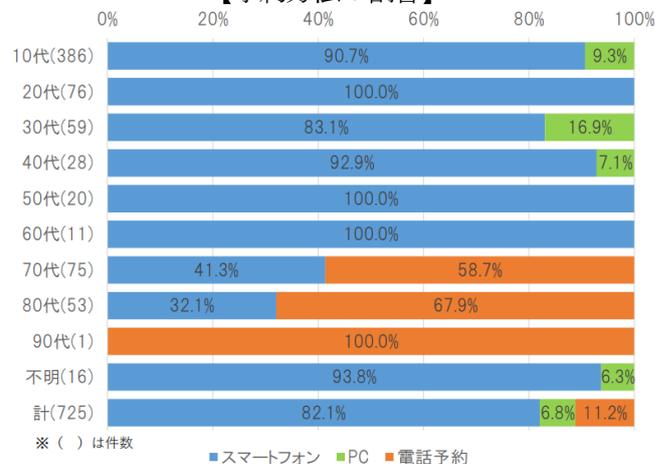
※ 運賃収入の（ ）内は、モニター利用者330人から100円ずつ収入があったと仮定した場合の金額

乗車時間の制約のないデマンド型おと姫バスは、10代（主に学生）の利用が全体の53.2%を占め、潜在需要の顕在化がみられた。また70代以上の利用満足度が68.0%と高く、スマートフォンからの予約も70代で41.3%、80代で32.1%を占め、高齢者のWeb予約に期待が持てる結果が得られている。

【利用者の年代の割合】



【予約方法の割合】



(課題)

デマンド型おと姫バスを社会実装し、公共交通再編を図るためには、他の公共交通手段からデマンド型おと姫バスに確実に切り替えていただく必要があります、その実現方法が課題として残っている。

また、デマンド配車システムの運行事業者用アプリケーションで、画面表示等について改修が必要とみられ、それらを検証するための期間を確保した再度の実証実験が求められる。

3. 令和5年度の取組

令和5年度の取組としては、3ヶ月以上の期間で実証運行を実施する。

切り替えを促進するための広報、利用者と運行事業者の双方に利便性の高いデマンド配車システムの改修・導入を行い、本町での社会実装（本格運行）に向けた取組とする。

名 称	デマンド型おと姫バス
実施主体 運 行	実施主体：大崎上島町 運 行：さんようバス(株)
実施期間	令和6年1月9日（火）～毎日運行 ※ 前倒す可能性あり
運行方式	デマンド（予約）型・区域運行で運用 ※ 運行ルート・ダイヤを設定せずに、予約に応じて運行する方式
エリアと 乗降箇所	運行エリア：大崎上島及び長島 乗降箇所：町内に「乗降ポイント」を設定する
車 両	・2台 ※1台で運用する時間帯あり ・運行事業者が借り受けたレンタカー車両を使用。※マグネット表示貼付 ・本格運行用の車両2台を、町が別途調達予定
配 車	予約・配車システムを使用（公募型プロポーザルにより選定）
運 賃	100円 ※ 本格運行時の運賃は協議中
運行時間	※ 協議中
利用方法	・事前に会員登録が必要 ・利用日の3日前から当日利用時刻の30分前までに予約（Web・電話） ・配車システムが、各自の予約情報に応じて効率的に配車を行うことで、複数が乗り合 って利用する。（一般タクシーのような個別利用と異なる） ※ 運行に支障がある場合は変更する可能性あり

※ 従来のおと姫バス（2台）は通常通り運行する。

4. 事業実施スケジュール

内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
<p>デマンド型おと姫バスの運行</p>	<p>県の「広島型 MaaS 推進事業補助金」を活用</p> <pre> graph LR A[社会実装計画 策定] --> B[実証実験 (県補助)] B --> C[改善] C --> D[実証実験] D --> E[社会実装] E --> F[フェリー等とのシームレスな乗り継ぎの調整 (広報・乗り方教室)] F --> G[その他公共交通機関への影響調査] </pre>				

<参考資料>運行エリアと乗降ポイント

下図には令和4年度実証実験で設定した乗降ポイントを記している。

令和5年度の実証実験では、令和4年度の実証実験で設定した乗降ポイントを基本とし、集落付近、集会所等公共的施設周辺を追加で設定し、社会実装後も都度見直しを行う。

